# 6 行政組織

## (1) 議決機関

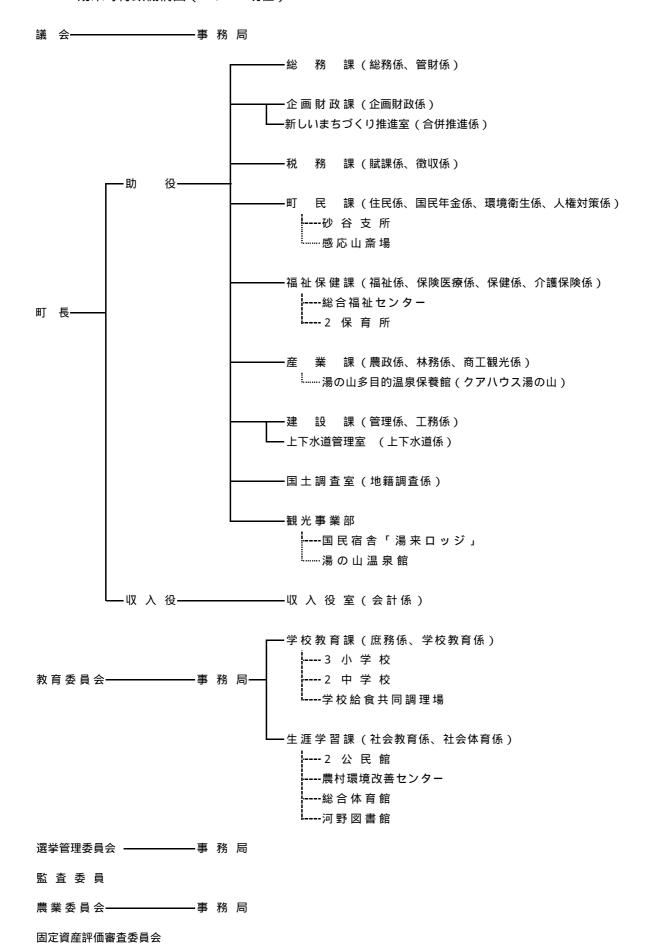
(平成16年4月1日現在)

	項	目	広島市	湯来町	
a譲	員の定数 任	班等			
	法の (a) 定数 上限数		64人	18人	
j	条例定数		60人	16人	
	(b) <b>任期</b>		平成15年5月2日 ~ 平成19年5月1日	平成13年9月30日 ~ 平成17年9月29日	
	(c) <b>選挙区</b>		区の区域ごとに議員を選出する。 (中区7人、東区7人、南区8人、西区 10人、安佐南区10人、安佐北区 8人、安芸区4人、佐伯区6人)	湯来町の区域で議員を選出する。	
b 常	任委員会等(	の種類	,		
	(a) <b>常任委</b>	会	総務委員会 定数10人 上下水道委員会 定数10人 文教委員会 定数10人 経済環境委員会 定数10人 厚生委員会 定数10人 建設委員会 定数10人	総務常任委員会 定数5人 建設経済常任委員会 定数5人 文教厚生常任委員会 定数5人	
ļ -	(b) 議会運	<b>営委員会</b>	定数 14人	定数 5人	
	(c) <b>特別委員会</b>		必要がある場合に議会の議決で置 〈。委員の定数は議会の議決で定 める。 大都市制度等対策特別委員会	必要がある場合に議会の議決で置く。委員の定数は議会の議決で定める。 広報広聴調査特別委員会	
			定数 20人 都市活性化対策特別委員会 定数 20人 次世代育成支援対策特別委員会 定数 20人	定数 6人 広域行政調査特別委員会 定数 15人 災害防止対策調査特別委員会 定数 16人 可部線対策特別委員会 定数 16人	

### (2)執行機関

#### 広島市行政機構図(H16.4.1現在)

議 会————————————————————————————————————	−事 務 局	(3課)
Γ	一企画総務局	(1部9課2室1事務所1センター)
	一財 政 局	(2部2課)
	一市 民 局	(3部3課2室1センター1事務所)
	一社 会 局	(2部10課2室3相談所2センター1検査所
		1病院1研究所1看護学校87保育園)
-	一環 境 局	(2部7課7事業所5工場1処理場)
助役	一経 済 局	(2部2課2センター1検査所1市場1事務局)
	一都市計画局	(4部8課)
	—都市整備局	(2部9課2事務所)
市 長	一道路交通局	(3部5課)
	一下水道局	(2部7課4処理場)
	一区 役 所	(8区)
	一大  学	(1事務局3学部1図書館1センター1研究所)
収入役 ———	- 会 計 室	(1室)
_	一消 防 局	(3部7課1室7消防署)
_	一水 道 局	(3部10課5営業所6事務所4浄水場)
L	一病院事業局	(1事務局2課2病院)
教育委員会	一事務局	<ul><li>(2部9課2室1センター2図書館137小学校61中学校8高校27幼稚園1養護学校8区調整公民館)</li></ul>
市選挙管理委員会 ————————————————————————————————————	−事務局	
区選挙管理委員会	一事務局	(8区)
人事委員会 ————————————————————————————————————	一事務局	
監査委員 ————————————————————————————————————	一事務局	
農業委員会 ————————————————————————————————————	一事務局	
固定資産評価審査委員会		



#### (平成16年4月1日現在)

項目	広	<b></b>	`	来町	
a 首長・補助機関の任期	,—, ,—,		•	14 - 5	
(a) 首 長	市長氏名 秋葉 任 期 H15.2	忠利 2.23~H19.2.22	町長氏名 中島 正子 任 期 H15.4.30~H19.4.29		
(b) 助 役		7.27 ~ H18.7.26	氏 名 吉村 浩司 任 期 H15.5.9~H19.5.8		
(c) <b>収入役</b>		4.1 ~ H19.3.31	氏 名 田室 照雄 任 期 H13.4.1~H17.3.31		
(d) <b>教育長</b>	氏 名 黒川		氏 名 寺岡 崇		
(e) <b>水道事業管理者</b>	氏 名 長谷		なし		
(f) 病院事業管理者	氏 名原田	康夫	なし		
b 各種行政委員会の定数・任期					
(a) <b>教育委員会委員</b>	定数 6人 任期 4年		定数 5人 任期 4年		
(b) 選挙管理委員会委員	定数(市) (区)各区 任期4年		定数 4人 任期 4年		
(c) <u>農業委員会委員</u>	定 数 38人 任 期 3年		定 数 18人 任 期 3年		
(d) <b>監査委員</b>	定数 4人 任期 4年		定数 2人 任期 4年		
(e) 固定資産評価審査委員 会委員	定数 9人 任期 3年		定数 3人 任期 3年		
(f) 人事委員会委員	定数 3人 任期 4年		公平委員会(県	に委託)	
c 職員の定数·実数	(平成15年4月1日現在、()は兼務				
	定数	実数	定数	実数	
首長事務部局	6,576人	6,503人	110人	100人	
議会事務部局	39	38	2	2	
教育委員会事務部局・ 教育機関	1,711	1,532	20	16	
選挙管理委員会事務部局	8	8	1	(1)	
人事委員会事務部局	14	12	_	_	
監查委員事務部局	26	25	1	(1)	
農業委員会事務部局	18	10	1	1	
消防部局	1,105	1,094	_	_	
水道部局	689	644		_	
病院部局	1,554	1,503	-	-	
計	11,740	11,369	135	119	

職員の初任給等							
(a) <b>初任給</b>		X	<b>△</b>	広島市	<b>=</b> T	湯 来 町	
		区 分			<b>4</b> 00円	<b>汤 木 则</b> 171,500円	
	行政職		<u>一(1年)</u> (卒(種)	·	200円	144,000円	
	医療職			·	900円	111,00013	
		種(大学卒)		·	500円		
			18~19歳	·	300円		
	消防職	種	20~21歳		000円		
		・その他	22~23歳	171,	100円		
			24歳以上	177,	900円		
	技			清掃業務員、土木業 務員、施設業務員、 業務員、学校業員、 選動場整備 ポンプ運転助手 18歳~ 144,300円~ 34、35歳 212,100円 36歳以上 219,400円 用務員、調理員、給食 調理員 18歳~ 144,300円~ 33~35歳 204,800円 36歳以上		高卒~ 152,200円~	
(b) 平均給与月額等	(注)広島市(	212,100円   注)広島市の初任給は減額前の額(平成16年1月から平成19年12月まで給料を3%減額)					
(職員全体)	区	分		<u></u>		湯来町	
		<u>与 計</u>	<u>.                                      </u>	412,700円		355,620円	
				366,600円 23,500円		333,820円	
		<b>整手</b>					
		扶養手当		22,600円		21,800円	
	平均年齢		43歳		42歳1月		
	<ul><li>1 平成15年度地方公務員給与実態調査による。</li><li>2 給与計はその他の諸手当を含まない。</li></ul>						
	∠ 於百.	与計はその					
(c) ラスパイレス指数	∠ 糸点・	与計はその		(	平成15年原	<u>芰</u> )	
(c) ラスパイレス指数	∠ Aig.	与計はその	広島で	`		<u>雙</u> )	

**(3) 財団法人等** (平成16年4月1日現在)

<u> </u>	<i></i>			( 1 75% :	
項目		広	島	市	
a 財団法人 等名	「総別のでは、「は、「は、「は、」」」」。 「は、「は、「は、」」」。 「は、「は、」」、「は、、「は、、「は、、」、、「は、、、」、、「は、、、」、、「は、、、、、、、、	〔〔(対 (上財) (大財)	<ul><li>(経財)</li><li>(大学)</li><li>(大学)</li><li>(大学)</li><li>(大学)</li><li>(大学)</li><li>(大学)</li><li>(大学)</li><li>(大学)</li><li>(大学)</li><li>(大学)</li><li>(大学)</li><li>(大学)</li><li>(大学)</li><li>(大学)</li><li>(大学)</li><li>(大学)</li><li>(大学)</li><li>(大学)</li><li>(大学)</li><li>(大学)</li><li>(大学)</li><li>(大学)</li><li>(大学)</li><li>(大学)</li><li>(大学)</li><li>(大学)</li><li>(大学)</li><li>(大学)</li><li>(大学)</li><li>(大学)</li><li>(大学)</li><li>(大学)</li><li>(大学)</li><li>(大学)</li><li>(大学)</li><li>(大学)</li><li>(大学)</li><li>(大学)</li><li>(大学)</li><li>(大学)</li><li>(大学)</li><li>(大学)</li><li>(大学)</li><li>(大学)</li><li>(大学)</li><li>(大学)</li><li>(大学)</li><li>(大学)</li><li>(大学)</li><li>(大学)</li><li>(大学)</li><li>(大学)</li><li>(大学)</li><li>(大学)</li><li>(大学)</li><li>(大学)</li><li>(大学)</li><li>(大学)</li><li>(大学)</li><li>(大学)</li><li>(大学)</li><li>(大学)</li><li>(大学)</li><li>(大学)</li><li>(大学)</li><li>(大学)</li><li>(大学)</li><li>(大学)</li><li>(大学)</li><li>(大学)</li><li>(大学)</li><li>(大学)</li><li>(大学)</li><li>(大学)</li><li>(大学)</li><li>(大学)</li><li>(大学)</li><li>(大学)</li><li>(大学)</li><li>(大学)</li><li>(大学)</li><li>(大学)</li><li>(大学)</li><li>(大学)</li><li>(大学)</li><li>(大学)</li><li>(大学)</li><li>(大学)</li><li>(大学)</li><li>(大学)</li><li>(大学)</li><li>(大学)</li><li>(大学)</li><li>(大学)</li><li>(大学)</li><li>(大学)</li><li>(大学)</li><li>(大学)</li><li>(大学)</li><li>(大学)</li><li>(大学)</li><li>(大学)</li><li>(大学)</li><li>(大学)</li><li>(大学)</li><li>(大学)</li><li>(大学)</li><li>(大学)</li><li>(大学)</li><li>(大学)</li><li>(大学)</li><li>(大学)</li><li>(大学)</li><li>(大学)</li><li>(大学)</li><li>(大学)</li><li>(大学)</li><li>(大学)</li><li>(大学)</li><li>(大学)</li><li>(大学)</li><li>(大学)</li><li>(大学)</li><li>(大学)</li><li>(大学)</li><li>(大学)</li><li>(大学)</li><li>(大学)</li><li>(大学)</li><li>(大学)</li><li>(大学)</li><li>(大学)</li><li>(大学)</li><li>(大学)</li><li>(大学)</li><li>(大学)</li><li>(大学)</li><li>(大学)</li><li>(大学)</li><li>(大学)</li><li>(大学)</li><li>(大学)</li><li>(大学)</li><li>(大学)</li><li>(大学)</li><li>(大学)</li><li>(大学)</li><li>(大学)</li><li>(大学)</li><li>(大学)</li><li>(大学)</li><li>(大学)</li><li>(大学)</li><li>(大学)</li><li>(大学)</li><li>(大学)<th>「原社会 (社団 (地大)の) (関係の) (関係の) (対域の) (</th><th>(建設関係) (財)原 (財)原 (財)原 (財)原 (財)原 (財)原 (場) (場) (場) (場) (場) (財) (財) (財) (財) (財) (財) (財) (財) (財) (財</th></li></ul>	「原社会 (社団 (地大)の) (関係の) (関係の) (対域の) (	(建設関係) (財)原 (財)原 (財)原 (財)原 (財)原 (財)原 (場) (場) (場) (場) (場) (財) (財) (財) (財) (財) (財) (財) (財) (財) (財

項目	湯来町
a 財団法人等名	(財)湯来振興公社
(a) <b>設立時期</b>	平成6年2月21日
(b) 事業	湯の山多目的温泉保養館(クアハウス湯の山)の維持管理及び運営の受託事業、 その他
(c) 組 織	役 員 8名(理事6名、監事2名) 評議員15名 職 員 9名
(d) <b>資本金等</b>	50,000千円(湯来町が全額出えん)

#### (注) 1 公益法人等の設立の考え方

国際化、高度情報化、高齢化などの時代の潮流の中で、多様化かつ複雑化してきた住民の行政に対する要望・期待に応えるため、各種施策や事業を積極的かつ効率的に展開していく必要があることから、行政と民間が一体となり、民間のもつ優れた経営能力、資金、人材及び技術力を積極的に取り込み、公共性及び経済性を確保しながら事業を進める方法として、公益法人等が活用されている。

2 掲載した団体は、行政が主体となり設立したものである。